

所属学科：地球圏システム科学科

氏名：東原壮汰

派遣期間：2018/3/18~2018/3/27

派遣先：タイ マヒドン大学(Mahidol University)

はじめに

今回、私はタイのマヒドン大学を訪れ、マヒドン大学の学生や先生との交流や現地の人々とのふれあいを通して、多くのことを経験し、学びました。まずは、現地の大学での講義や現地での岩石や地質の観察、先生や学生との議論を通じて、自分の専門とする地球科学について学びました。言語としては、学生や先生との会話は基本的に英語を用いて行い、学生や現地の人々から自己紹介や挨拶程度のタイ語を学び、私からは日本語や漢字について教えてあげました。他にも日常生活を通して、タイの文化や風習を経験することができました。

スケジュール

- | | |
|------|----------------------------------------|
| 3/18 | 出発(福岡空港→上海浦東国際空港→スワンナプーム国際空港)・マヒドン大学到着 |
| 3/19 | 大学案内・異文化見学(寺院)・4年生の授業見学 |
| 3/20 | 異文化見学(歴史遺産・農園・滝) |
| 3/21 | 異文化見学(寺院・鉄道・象)・洞窟見学 |
| 3/22 | 化石露頭見学・歓迎会 |
| 3/23 | 脇田先生特別講義・洞窟見学・異文化見学(市場) |
| 3/24 | 異文化見学(エラワン滝・ダム・市場)・洞窟見学 |
| 3/25 | 異文化見学(寺院)・プレゼンテーション準備 |
| 3/26 | プレゼンテーション発表 |
| 3/27 | 帰国(スワンナプーム国際空港→上海浦東国際空港→福岡空港)・山口到着 |

マヒドン大学(カンチャナブリキャンパス)

マヒドン大学はタイの国立大学で首都であるバンコクを中心に複数のキャンパスと学部を有する総合大学です。今回、派遣先となったのはバンコクから西に200km程に位置するカンチャナブリキャンパスです。首都バンコクにあるキャンパスはとても大きく、施設や環境も充実していますが、これに比べるとカンチャナブリキャンパスは規模が小さく、田舎に位置しています。一部の理系学部の2~4年生が在籍しており、男女の割合は同じくらいでした。山の中に位置するため、キャンパス内で野生の猿や犬、サソリなど多くの生き物を見ることができました。キャンパス内には学生寮があり、ほとんどの学生がバイクを所有していて、学生の通学や移動手段として用いられており、車を所有している学生もい

ました。しかし、日本とは異なり、自転車で通学している学生を見かけることはありませんでした。

タイの文化・暮らし

タイの気候としては、気温は日本の夏と同じくらいで、半袖・半ズボンでも汗をかくほどで、時折、スコールがありました。室内は冷房が効きすぎていることもあり少し寒いと感じました。タイの人々の多くは仏教徒であり、多くの仏教の寺院を見かけました。食文化としては、日本と同じくお米を中心とした食事ではあるが、タイ米という少し細長く、水分の少ないお米でした。また、タイの学生は自炊をあまりせず、朝と昼は学校の食堂を利用し、夜は外食をするのが一般的でした。食べ物はトムヤムクンに代表されるようにすっぱいものや辛いものも多く、飲み物は甘いものが多かったです。多くの学生が日本のアニメやアイドルを知っており、あちらこちらにセブンイレブンがあり、日本の商品も多くみられました。映画になった戦場にかかる橋を訪れ、日本とタイの歴史について改めて学ぶことができました。

巡検・講義(4年生の卒業研究中間発表)

巡検では現地にある洞窟や化石の見学を中心に取り組みました。タイでは石灰岩の露頭が多くみられ、洞窟が多くあるのもそのためだと考えられます。他にも多くの化石が産出場所に案内していただき、多くの化石を目にすることができました。化石は一目でわかるほど大きいものも多く、日本では見かけない化石を多くみることができました。4年生の卒業研究の内容でも化石について取り組んでいる学生が多く、その他にも地質を応用した研究に取り組んでいる学生もいました。タイ語での発表だったので、詳しい内容はわかりませんが、発表に用いられていたプレゼンテーションのスライドは美しくまとめられており、参考になりました。



図 1. 左は化石写真、
右は洞窟写真

まとめ

今回は、10日間という短い期間でしたが、初めての海外渡航だったこともあり、多くの経験をすることができました。私がこれまで暮らしていた日本での生活とは異なる文化の中で暮らすことで、日本での生活がいかに恵まれているということを感じるとともに、日本では感じることでできない新しい価値観に触れることができました。英語でのコミュニケーションは、初めはなかなかうまく自分の思っていることを伝えるのに苦労しましたが、身振り手振りや表現を工夫することで最終的には伝えられるようになりました。しかし、まだまだ英語力については不十分であると感じさせられました。特に最終日に行った、英語でのプレゼンテーションでは、私の発音やイントネーションの誤りからうまく聞き手に伝わっていないなど感じる事が多々ありました。なので、この悔しさをバネにして、今後の英語力向上に活かしていきたいと思いました。最後に、10日間私たちのタイでの活動をサポートしてくださったマヒドン大学の先生方や学生の皆さん、そして現地の方々々にこの場を借りてお礼申し上げます。



図 2. 集合写真